

会 議 録

会議の名称	第3回宍粟市都市計画マスタープラン検討委員会
開催日時	令和元年7月23日(火) 13:30~15:30
開催場所	宍粟市役所 3階 庁議室
議長	太田尚孝委員長
出席委員	学識経験者 : 太田尚孝委員 関係行政機関 : 尾下嘉春委員、植田吉則委員、鶴野 聡委員 市内関係団体 : 塚田清一委員、本條 昇委員、久保欽哉委員、杉本憲昭委員、 船引英示委員、前野瑞恵委員、坂口雅彦委員、高井洋子委員 公募による市民 : 土井景子委員
欠席委員	下川秀美委員
事務局職員	富田健次、太中豊和、石垣貴英、田中藤夫、小坂崇雄、原田 渉、田中翔吾 [策定業務受託業者] (株)地域計画建築研究所 岡本壮平、松下藍子
傍聴人数	0人
公開・非公開	公開
議題(案件)	議事1) 第2回検討委員会の主な意見について 議事2) 都市づくりの課題について 議事3) 都市の将来像について
会議資料等	宍粟市都市計画マスタープラン検討資料 第2回宍粟市都市計画マスタープラン検討委員会会議録 第2回宍粟市都市計画マスタープラン検討委員会の主な意見と対応方針

議 事 の 経 過	
1. 開会 2. あいさつ	
3. 議事	<p>議事 1) 第 2 回検討委員会の主な意見について</p> <p>議事 2) 都市づくりの課題について</p> <p>・事務局より資料の説明</p>
委員	<p>都市づくりの課題について、(6)～(8)の項目はわかりやすいが、(1)～(5)は内容が重なっているように思う。</p> <p>例えば「(2) 都市のにぎわいと活力の創出」については、土地利用の話が主になっていると思うが、土地利用の問題と合わせて都市基盤の問題も記載されている。もう少し整理できないか。</p> <p>「(5) 都市基盤・交通ネットワークの整備、維持管理」とあり、交通ネットワークは都市基盤の一つだと思うが、交通ネットワークは「(3) 都市機能の分担と連携強化」に入れたほうがよいのではないかと思った。</p>
事務局	<p>土地利用は民間活用も含めたすべての土地利用のことを言っている。都市基盤は、道路、病院など公共的なことを言っており、若干位置づけが違ってくる。</p> <p>「(2) 都市のにぎわいと活力の創出」について、にぎわい創出には、歴史的文化的資源を活用して人にきていただくことが必要になる。「(6) 自然資源と歴史的文化的資源の保全・活用」と重なっているが、いろんな分野に重なってくる部分も当然出てくる。</p>
委員	<p>現行の都市計画マスタープランを策定したときは、人口は増え続ける、発展し続けるという予測で、過度に発展し続けないようにというのが考えとしてあったのだと思う。今、人口が増えない、発展しないという状況にあって、どのような都市計画を考えていくか。ストックマネジメントという言葉が重要ではないか。また、郊外に拡張し、自動車中心社会が進展していつているが、中心にコンパクトシティを形成することで、コストが削減できるのではないか。そうすることで、交通弱者に対応した歩いて暮らせるまちも実現する。第2のダムとしての機能もより促進すると思う。そういった考え方が、今回の都市計画マスタープランにおいて重要になると思う。</p>
事務局	<p>人口減少している今、このマスタープランでは人口減少対策も検討していくべきと考えている。</p> <p>人口減少による財政不足の状況で、新たにつくるのではなく、あるものを使っていくストックマネジメントが非常に重要だと考えている。</p> <p>これからの都市経営を考えると、コンパクトシティを進めていかなければならないというのはよく言われていることである。中心部に集積するからといって周</p>

委員	<p>辺部を置き去りにするわけではないということを心におきながら進めていきたい。</p> <p>第2のダム機能というのはそういうことだと思う。波賀や一宮から転出する人が、山崎ではなく姫路などに行ってしまう。山崎ではやはり都市機能を誘導していくべきかと思う。</p>
委員	<p>現在のスピードで外部に流出していくのを、今後防がなければならない。第2のダム機能を促進するために何か方針を打ち出さなければならない。</p>
委員	<p>まちの在り方の方向性をこの場に出すべきなのか。総合的な視野の中で決め、それに基づいて都市計画マスタープランを決めていくべきなのか。</p>
事務局	<p>第1のダム、第2のダムという考え方は既に市として持っている。その中心となるのは都市計画区域となる。そういう考え方の中で都市計画マスタープランをどうしていくかを考える場である。</p>
委員	<p>行政計画をつくるときに大きな問題となるのは、大きな方針を立てると他のところが切り捨てられるのではないかという議論になることである。そういう心配もあって事務局ははっきり答えられないのかと思う。</p> <p>旧山崎町を第2のダムとするのはもう議論されていて、それをどう実現に結び付けていくのかというのがここでの議論である。</p>
委員	<p>19 ページの都市づくりの課題の「(1) 人口減少・少子高齢化への対応」の中で、「人口増加に向けたまちづくりを進める」とあるが、全国的に人口が減っていく中で人口増加をめざすのは難しいのではないかと。表現を改めたほうがよいかと思った。</p> <p>第2のダムとはどういう機能か。言葉としての定義づけをちゃんとしていたほうがよいと思った。</p> <p>都市づくりの課題については、今後施策も検討しながら方向性を固まるまではいろいろ組み替えはあるものだと思う。「(3) 都市機能の分担と連携強化」については、「分担」というのが生活サービス機能と都市機能の分担ということなのか、何の分担を示しているのか定義をしっかりとったほうがよいと思った。</p>
事務局	<p>「人口増加」という記載、第一のダム・第二のダムの定義づけについては整理する。</p> <p>「都市機能の分担の」という記載は、生活サービス機能の分担と認識していたが、整理する。</p>
委員	<p>8 ページの産業分類別就業人口の推移について、「第3次産業は増加傾向にあり</p>

委員	<p>ます」と書いているが、グラフでは増加していないので「ほぼ横ばいにある」という記載に修正したほうがよい。</p> <p>21 ページに「姫路鳥取自動車道」とあるが、適切な言葉は「播磨自動車道」である。</p> <p>19 ページの都市づくりの課題の「(1) 人口減少・少子高齢化への対応」の中で、「山崎都市計画区域における人口も～(略)～減少していますが、全市と比べるとその傾向は緩やかです」とあるが、緩やかだから問題がないというように受け取れるので、「緩やかだが減少しています」と書いたほうがよいと思う。</p>
委員長	<p>第2のダムというのは総合計画で位置づけられているのか。</p>
事務局	<p>総合戦略で第1のダム、第2のダムという言葉位置づけている。</p> <p>北部3つのまちの市民局を中心としたエリアの機能を高めることで、第1のダムをつくっていくということである。</p> <p>しかし、第1のダムをつくっても姫路市やたつの市への流出がやはり大きくなるので、市外からの流出をくいとめていく第2のダムとしての役割を山崎が担うということである。</p> <p>そういった趣旨のことが総合戦略で具体的に記載されている。</p>
委員	<p>総合計画、人口ビジョン、いろんな既往計画がある。また、その一つとして西播磨地域都市計画区域マスタープランがあるが、そこでは宍粟市都市計画マスタープランの位置づけがどうなるのか教えてほしい。</p>
委員	<p>西播磨地域都市計画区域マスタープランは現在改定中である。西播磨地域都市計画区域は、姫路も含む広大な範囲となる。宍粟市の中の山崎都市計画区域がどうかという明確な書き方はまだあまりないかもしれないが、現在の段階の案を委員に配布してはどうか。</p>
委員	<p>広域的な道路の位置づけがあれば、山崎都市計画区域もそれに基づき考えていかなければならないのではと思った。</p>
委員長	<p>上位関連計画の情報をもっとあるのではないかというご意見である。最低限西播磨都市計画区域マスタープランの情報は次回準備いただきたい。</p>
委員長	<p>議事3) 都市の将来像について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より資料の説明 <p>都市拠点に位置付けられることの意味を教えてほしい。</p>

事務局	山崎の中心的な場所が都市拠点であり、そこに行けば全てが揃っている場所と考えている。
委員	都市拠点＝第2のダム機能だと思っている。商業拠点、文化拠点、医療拠点などが含まれている。都市拠点にぶらさがる形で整理したほうがいいと思った。
事務局	階層性を表現しないといけないというご指摘として検討する。
委員長	都市拠点に指定されることでどういう意味があるかという、我々が議論しているダムは総合計画で位置づけられており、都市計画マスタープランである程度その範囲を決めると、具体的にその中身をどうしていくかという議論になっていく。どういう考え方でどういう範囲を決めるか、宋栗市にとって重要である。これまでは山崎の中で強弱をつけず開発してきたと思うが、今後はメリハリをつける方向性になっていくと思う。
事務局	ダムの中身としては、生活拠点も含まれてくる。
委員	<p>都市の将来像については一行程度で表現し、これが都市づくりの基本方針につながっていくのだと思う。将来像と基本方針へのつながりがわかりやすいように、これらの間にもう一段階「基本目標」の位置づけがあったらよいと思う。</p> <p>私が個人的に基本目標として考えているのは、「歩いてくらしやすいまちづくり」、「自然と歴史がかがやく美しいまちづくり」、「賑わいを創出する活力あるまちづくり」である。</p>
事務局	あったほうがわかりやすいと思うので、前向きに考えていきたい。
委員	<p>播磨自動車道の工事は来年度末に完成する予定である。この都市計画マスタープランの期間の中では十分に機能しているので、27ページの都市構造図に位置付けたらどうか。</p> <p>29号線は一宮・波賀でとまるのではなく、そこから先にも続くように表現してほしい。また、広域連携軸という位置づけに変更してもらったほうがいい。</p> <p>28、30ページの表の整理の中でも播磨自動車道のことを入れてほしい。</p>
委員	拠点について、具体的には商店街やイオンが商業拠点と位置づけられている。例えば他のAコープやカワベなど商業施設があるが、拠点として位置づけられるところと位置付けられないところで、メリット・デメリットはあるのか。
委員長	今あるものの中から生活する上で特に重要なところを位置づけたということだと思う。

事務局	歩いて暮らせるまちをめざしたある程度絞ったエリア、特に都市機能の集積があり交通の結節点でもあるエリアを想定し、その中で拠点を設定している。
事務局	近隣商業地域に指定されており、商業の土地利用を進めていくエリアとして用途地域上は位置づけられている。周辺も商業機能を広げていくべきということであれば検討させていただく。
委員	特別な優遇措置があるということではないのか。
委員	近隣商業地域に指定されているので、住居系の用途地域より容積率や建蔽率は高く、商業施設の立地上メリットがあると言える。 用途地域の指定状況や現在の施設の立地状況など、現状に基づいた判断と、今後の戦略として誘導していくかどうかということに合わせて検討する誘導型を合わせて検討すべきだと思っている。
委員	都市構造図の中で、揖保川、菅野川の表示がされているが、防災の観点からも河川は重要なので何か位置づけをすべきだと思う。山や田の位置づけがあるのであれば、川も何かゾーンの位置づけがいるのではないか。
委員	31 ページでは「都市づくり」という言葉を使っている。「都市づくり」のほかに「まちづくり」といった表現もあるが、都市計画に基づいた実行のことを「都市づくり」というのかと思っている。そう考えると、「(7) 市民と事業者・行政の協働による都市づくり」は、「まちづくり」という表現のほうが合っていると思う。
委員長	一般にまちづくりと都市計画は重ねて議論されるところが多い。都市計画マスタープランは都市計画のことが主となる。
委員	31 ページで「(1) 持続可能な都市づくり」とあるが、「持続可能な」という言葉は後ろにどういう文章がくるかにより意味が変わってくる。「持続可能な社会」というと脱温暖化、自然環境の保全といった意味合いが強く、行政が使うと、財政の健全化という意味合いが強いと思う。ここでは人口に対する持続可能性のことを言っていると思うので、タイトルでわかるようにしてもらいたい。 (今後のスケジュール) ・次回は 10 月に開催予定。全体構想を提示する予定。
4. 閉会	・副委員長あいさつ